

授業のポイント



①児童一人一人が自身の考え方の変容を実感できる学習過程



児童一人一人が、自分の音楽をつくった上で、仲間と一緒に、音楽をつくる活動を通して、協働する中で、自分にはない考え方やフレーズのつなげ方などを取捨選択し、もう一度自分の音楽を作りなおしました。児童一人一人が、自身の考え方や音楽の変容を実感することができました。

②集団としての思いや意図を共有するための工夫



一人一人が自分の音楽をつくる前に、各グループで、共通のテーマを作成していました。そのテーマを受けて、一人一人が音楽をつくる中で自らの思いや意図をもっているから、集団で一つの音楽をつくる際に、要素の働きに伴う自分の思いや意図を表出し合う交流が自然的に生まれました。



前時と本時をつなぐ記録映像



週に1回～2回程度しかない音楽科の授業では、前時との意識のつながりがとても難しいです。そこで、前時の児童の活動の記録映像や本時の課題追求のポイントなどをつなげてICTを使い説明しました。児童は、前時までに扱ってきた見方・考え方を働かせることができました。

個人とグループをつなぐワークシートの工夫



①個人②グループ③個人の流れを同じ形のワークシートを活用することで、児童は、迷いなく活動することができました。この仕組みは、教師が個を見取る仕組みにもなります。